



興味深い講演に拍手を送る来場者

7月11日 【釜石市民ホールTETTO】

「星座石と陸奥州気仙郡唐丹村測量之碑」 日本天文遺産認定記念講演会

日本天文遺産認定に係る現地調査を担当したNPO法人イーハトーブ宇宙実践センター理事の亀谷収さん（同遺産選考委員）、釜石南高（現釜石高）出身で広島大宇宙科学センター長の川端弘治さんが講演。釜石と宇宙をつなぐロマンあふれる話に約150人が聞き入りました。同遺産認定は全国20例目、岩手県では3例目となります。亀谷さんは「岩手は星がきれいな“銀河県”。今回の認定で、多くの人にその重要性を知ってもらえれば」と期待を込めました。



大勢の来場者でにぎわった第33回かみなかしまフェスティバル

7月23日 【上中島サンパルク・サンデー駐車場】

今年で最後 かみなかしまフェスティバル

市西部地区の夏の夜の一大イベント「かみなかしまフェスティバル」が開かれました。飲食の出店と音楽や郷土芸能、ダンスなどのステージ発表を組み合わせたイベントで、平成元年から毎回大勢の客を集めてきた同フェスは、来年以降は会場確保など不確定な要素があるため、今回で終了することが発表され、訪れた人たちからは惜しむ声が聞かれました。



祈念演舞を披露する「南部藩壽松院年行司支配太神楽」

7月25日 【新市庁舎】

市民の安心安全守る拠点 新市庁舎落成記念式典

市が天神町に建設を進めてきた新市庁舎が完成し、約210人が出席して落成記念式典を開催しました。新市庁舎にはこれまで分散していた行政機能が集約され、市民の利便性が向上する他、災害時には一時避難場所として利用可能な機能を備えており、東日本大震災の教訓を生かした防災拠点、市民交流やにぎわい創出の場として期待されています。新市庁舎での業務開始は9月24日を予定しています。



最終日にはスタジアムの清掃活動も実施していただきました

7月28～31日 【釜石鷯住居復興スタジアム 他】

早稲田大学ラグビー部が初合宿 心身鍛え日本一へ

早稲田大学ラグビー蹴球部約170人が、7月28日から31日までの4日間、釜石鷯住居復興スタジアムなどで合宿を実施しました。合宿は「復興支援」「人材育成」「チーム強化」の3つを柱として、トレーニングに加え、震災学習や地域住民との交流、高校生対象のラグビークリニックなどを行いました。清水健伸主将は「手厚いサポートをしてもらい嬉しい。ラグビーを愛していることが伝わってくる町で学びが多かった。優勝して感謝を伝えたい」と合宿を振り返りました。

7月3～7日 【ココイロこすもすファーム（洞泉）】

夜を彩る「七夕あかり」 鎮魂と未来への希望の願い

竹灯籠のライトアップや音楽、食を楽しむ「七夕あかり」が開催されました。集まった子どもたちは、山から切り出した竹を使った流しそうめんやシャボン玉、遊具遊び、大人たちはダンスやピアノ演奏を楽しむなど、光に彩られた園内で思い思いの時間を過ごしました。イベントを企画した石塚佳那子代表は、「子どもたちの笑い声が響くと大人も元気になる。それが『こすもす』の原点」と感慨深げに話していました。



竹灯籠やイルミネーションの明かりを楽しむ

7月8日 【橋野鉄鉱山インフォメーションセンター】

大型スクリーンで遺産巡り 展示室をリニューアルオープン

世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産「橋野鉄鉱山」のインフォメーションセンターが、新たな展示で生まれ変わりました。センターや史跡周辺の維持管理を担う橋野町振興協議会の菊池郁夫会長は「オープンから13年が経過し、従来の展示では飽きがきている状況もあった。今回のリニューアルでまた多くのお客さまが来てくれることを願う。市とともに各種イベントも開催しながら誘客に努めていきたい」と話しました。



橋野鉄鉱山の紹介映像。普段は非公開の「採掘場跡」も

7月7～8日 【陸中海岸青少年の家】

「よろしくね！」 栗林小と鷯住居小 学年交流スタート

来年度に統合する栗林小と鷯住居小は、新年度からのスムーズな学校生活につなげようと、同学年児童の交流をスタートさせました。5年生（栗小4人、鷯小21人）は1泊2日の宿泊体験学習を同日程で実施し、自然体験活動やキャンプファイヤーで楽しい時間を共有。児童らは教職員も驚くほど互いに打ち解け、“新生”鷯住居小での学校生活に期待を膨らませました。



やぐらに点火。炎を囲みフォークダンス「ジェンカ」を楽しむ

7月10日 【釜石小学校】

歩いて確認！地域の危険箇所 「ぼうさい安全マップ」発表会

釜石小学校で、地震や大雨、台風などの災害別の危険箇所を、児童が自分たちでまとめた「ぼうさい安全マップ」の発表会が開かれました。発表は6年生を中心に中高学年も加わり、学区内の5地区の子ども会ごとに発表。通学路、遊び場など自分たちが住む地域で見つけた気になるポイントを児童同士で共有し、自らの命を守る意識を高め合いました。



マップに示した危険箇所について発表する児童